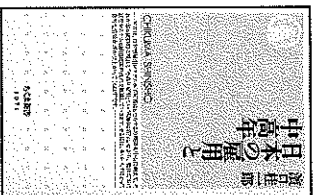




## BOOK

### 日本の雇用と中高年



濱口桂一郎 著  
筑摩書房 刊

780 円 (税別)

欧米では、経験の浅い若者からリストラされて行き、日本では、年功的処遇で、人件費の高い中高年からリストラされていく。「ジョブ型」の欧米では、雇用問題は若者問題であるのに対して、「メンバーシップ型」の日本では雇用問題は中高年問題である。本書では、中高年に優しい日本の雇用システムについて、如何にして長期雇用、年功的処遇の日本型雇用システムが固まってきたのかを、戦後の日本の雇用システムと雇用政策の流れを通して概説している。そして、今後の制度設計には、雇用システム単独ではなく、社会保障システムなど他のシステムを同時並行して考えていく必要があると説く。話題の限定正社員、ホワイトカラー・エグゼンプションなど、雇用・労働問題を考える上でも読んでおきたい一冊。

### 弁護士をめざして 56歳からの挑戦

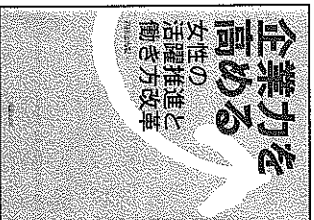


加藤裕治 著 法学書院 刊

1,380 円 (税別)

著者は、弊財団の前理事長である。本書は、司法試験合格までの体験記である。司法試験？自分には関係ないと思う方も多いと思うが、特に注目したいのは、56歳で司法試験への挑戦を決意し、6年かけて見事やり遂げた、その背景にある、「人生二度生き」の哲学である。健康寿命も70歳になり、生涯現役で、元気なうちは働きたいと思っている人も、まだ、先の話だと思っている人も、「人生二度生き」の考え方で、人生の後半をどう生きていくのかをあらためて考えてみることも必要ではないだろうか。

### 企業力を高める 女性の活躍推進と働き方改革



経団連出版 (編)

1,800 円 (税別)

少子高齢化と人口減少の中、女性の活用は、企業の喫緊の課題になっていく。本書は、「女性活躍推進の意義と効果」、「ダイバーシティ推進と働き方改革」をテーマに、女性が活躍する組織、女性リーダーの育成などについて、学習院大学の今野浩一郎教授、中央大学の阿部正浩教授など、18人の有識者による17講が収録されている。女性の活用やダイバーシティの推進を担当している人事や組合役員の参考になるだろう。